

## 海外研修で考えたこと

### 福島県立医科大学附属病院 初期研修医（2年目） 富田陽一

私たちのグループは小児科を見学させていただき、小児科の Poon 先生にお世話になることになりました。

Dr.Poon にはシンガポールと日本の研修プログラムについていろいろと聞かれましたが、日本とシンガポールでは根本的に異なり、非常に説明するのが難しかったです。シンガポールでは卒業後 2 年間のインターンとして内科や外科や救急をローテーションし、その後レジデントとしてまた、各科をローテイトします。そしてレジデントが終了するときに、試験を受けます。そこでよい成績をとらないと希望の専門化にはなれないようです。さらに試験は続き、より先の専門に進むのはかなり困難なようです。また、シンガポールでは夜に緊急で呼ばれないような科が人気だ Dr.Poon は言っていました。また、給料体系も日本と違い一般医と専門医の給料差はかなりあるようです。（具体的な差までは聞けませんが・・・）なので、日本のように専門医をとった後に、開業して一般医として働くことがかなり疑問だったようです。

シンガポールと日本の人口当たりの医者数は対して差がないのに、シンガポールでは医療体制がしっかりしていて、充足感を感じることができました。（SGH を見学したからということもあるかと思われそうですが。）女性の医者も多く、日本では女性教授はあまりお目にかかれませんが、向こうでは普通のようなようです。また生活もかなり保障されているようです。ただ、シンガポールでは試験成績によって進路はかなり制限を受けているようでした。

日本はその点、自由度が高く、誰でも希望の科に進むことができます。あまつさえ働く場所でさえも決めることができます。その結果、医者の偏在が生じ慢性的に忙しい状況を作っているのではないかと思いました。

どちらがいいかとは一口に言えませんが、日本でもこうなってほしいなと思う点は数多くありました。

また、自分たちが研修していたときにシンガポールとドイツの学生も研修に来ており、特にドイツの学生は、休みを利用してさまざまな国の病院を見学していると聞き、非常に驚きました。彼女が言うにこれまで、タイや、カンボジア、ニュージーランド、ヨーロッパ諸国に病院見学に行ったそうです。日本ではなかなか考えられなかったことなので非常にカルチャーショックを受けました。

今回の研修の反省点としては日本の医療や自分たちの受けている研修についてもっと英語で説明できるように練習しておくべきだったと思います。

今回のシンガポール研修では大変貴重な経験をさせていただきました。このような機会をいただきまして大変感謝しています。ぜひこのようなプログラムを今後も継続して行ってほしいと思います。

